

第6章 岐阜城跡の現状と課題

第1節 調査の現状と課題

岐阜城跡の調査の現状と課題を地区ごとに分け、以下のとおり整理した。

表 6-1 調査の現状と課題（1）

	現状	課題
山麓部	<p>千畳敷エリア</p> <ul style="list-style-type: none"> 昭和 59 年度から断続的に 4 次にわたる発掘調査及び試掘・立会調査が実施されている。 平成 19 年～29 年度実施の 4 次調査では A～E 地区を設定し、内容確認の発掘調査を実施している。A 地区、C 地区では、面的な発掘調査を実施した。谷川や岩盤も含めた庭園空間の全貌が判明しつつある。 下層では斎藤段階やそれ以前の時代の遺構を部分的に確認しているが、全体構造は把握できていない。 <p>赤ヶ洞エリア</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 29・30 年度の分布調査により赤ヶ洞で遺構群が見つかっているが、発掘調査は未実施である。 	<p>千畳敷エリア</p> <ul style="list-style-type: none"> 千畳敷エリアのうち、B 地区や D 地区は試掘調査にとどまっており、今後、面的な発掘調査などによる内容確認を進める必要がある。 遺構の変遷について把握する必要がある。 地上に露出した庭園の痕跡や、当時の建物の高さを想定した庭園の見え方等の確認を行う必要がある。 作庭技術の系譜について検討する必要がある。 <p>赤ヶ洞エリア</p> <ul style="list-style-type: none"> 発掘調査などによる内容確認を進める必要がある。
山林部	<ul style="list-style-type: none"> 平成 20 年度及び 29・30 年度の分布調査により、各所で石垣などの遺構を確認している。登城路について本格的な調査は行われておらず、道路遺構等は明らかになっていない。 <p>中腹エリア</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和元年度に、内容確認の試掘調査を実施している。 <p>七曲峠エリア</p> <ul style="list-style-type: none"> 分布調査で平坦地が確認されているが、発掘調査は未実施である。 	<ul style="list-style-type: none"> 山林部各所で確認された砦跡や登城路の発掘調査を行う必要がある。 登城路について、文献や絵図、発掘調査等による位置や構造の詳細調査を行う必要がある。 <p>中腹エリア</p> <ul style="list-style-type: none"> 確認された遺構群について、発掘調査による内容確認を進める必要がある。 <p>七曲峠エリア</p> <ul style="list-style-type: none"> 発掘調査などによる内容確認を進める必要がある。

表 6-2 調査の現状と課題（2）

	現状	課題
山上部	<ul style="list-style-type: none"> 平成 13 年に井戸に至る通路の発掘調査を実施している。 平成 20 年度及び 29・30 年度の分布調査により、石垣などの遺構を確認している。 平成 30 年度から天守台周辺、一ノ門、二ノ門、上台所、資料館裏などにおいて内容確認の試掘調査を実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> 天守台石垣周辺の発掘調査により、構造や変遷を明らかにする必要がある。 未調査の虎口、曲輪、井戸、資料館周辺等について、発掘調査等による内容確認を行う必要がある。
史跡全体	<ul style="list-style-type: none"> 『千畳敷 I』（1990）において、縄張り、石垣、建築の検討を行っている。 『岐阜城跡』（2009）において、研究史、分布調査、絵図類、文献の調査を行っている。 『史跡岐阜城跡保存管理計画書』（2012）において、信仰、景観、岐阜公園、名称・地名、復興天守の調査を行っている。 『史跡岐阜城跡整備基本計画』（2015）において、山麓調査のまとめ、文献調査を行っている。 これまでの発掘調査や分布調査成果の整理や、考古学的見地による考察を中心に、幅広い分野の論考を掲載した『史跡岐阜城跡総合調査報告書 I』（2021）を刊行した。 	<ul style="list-style-type: none"> これまでの調査で見つかった石垣、庭園、瓦などの遺構や遺物について、他の城郭と比較検討しながら調査研究を進め、実態を明らかにする必要がある。 総合調査報告書 I で網羅できなかった文献史料を中心とした調査研究を行い、成果をまとめ、文献史料から読み取ることのできる岐阜城の価値を明らかにする必要がある。 往時の登城路を含めた岐阜城跡全体の構造を明らかにする必要がある。
その他地区	<ul style="list-style-type: none"> これまでの発掘調査や分布調査成果の整理や、考古学的見地による考察を中心に、幅広い分野の論考を掲載した『史跡岐阜城跡総合調査報告書 I』（2021）を刊行した。 	<ul style="list-style-type: none"> 城下町や砦跡などの調査研究を継続し、その形成と変遷の過程を解明する必要がある。

第2節 保存の現状と課題

1. 史跡岐阜城跡地区

史跡岐阜城跡地区における保存管理の現状と課題を、史跡を構成する要素ごとに分け、以下のとおり整理した。

表 6-3 A. 地上に露出あるいは地下に埋蔵されている遺跡（1）

	現状	課題
山麓居館	<ul style="list-style-type: none"> 石垣を全体的に管理する台帳は作成されていない。 4次に及ぶ発掘調査を実施し、遺構の残存状況を確認している。また、調査後は保護層を確保したうえで埋戻しを行い保存している。 昭和63年に入口部分の整備を実施、一部の石垣は露出展示を行っている。 一部被熱している石垣が見られる。 一部が土砂災害警戒区域となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 石垣の台帳を作成し、状況把握を行う必要がある。 露出展示や被熱している石垣の保存対策及び維持管理を行う必要がある。 岐阜公園整備と連動して災害への対策を行う必要がある。
山上部城郭遺構	<ul style="list-style-type: none"> 石垣を全体的に管理する台帳は作成されていない。 平成30年度より山上部の発掘調査を実施し、遺構の残存状況の確認を行っている。調査後は保護層を確保したうえで埋戻しを行い保存している。 石垣等遺構が露出されている箇所がある。 過去に石垣石材の落石があったため、危険個所に防護網による保護対策測量による現況記録、石垣変異計測による経過観察を行っている。 石垣周辺に生えている樹木の伐採を行い、石垣の保護及び景観の向上を図っている。 樹木伐採による日光の直射により、雑草の繁茂が見られるため、石垣周辺の除草清掃を定期的実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> 石垣の台帳を作成し、状況把握を行う必要がある。 発掘調査を継続し、遺構の残存状況を把握する必要がある。 調査成果をもとに遺構の保存方法を検討する必要がある。 道沿いの石垣のうち危険な個所に対して、落石防止対策及び保護対策を行う必要がある。 露出している石垣等遺構の保存及び維持管理を行う必要がある。 石垣や景観に影響を及ぼす恐れのある樹木の管理を継続して行う必要がある。 定期的な除草清掃を計画的、継続的に行う必要がある。

表 6-4 A. 地上に露出あるいは地下に埋蔵されている遺跡（2）

	現状	課題
山中の砦跡	<ul style="list-style-type: none"> ・石垣を全体的に管理する台帳は作成されていない。 ・砦跡等の遺構は大半が未調査で、全容が把握できていない。 ・山林部で確認されている石垣等は、残存状況が悪いものが多い。 ・史跡範囲外にも砦跡が広がっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・石垣の台帳を作成し、状況把握を行う必要がある。 ・露出している石垣等遺構の保存及び維持管理、石垣に影響を及ぼす恐れのある樹木の伐採等管理を計画的に行う必要がある。 ・発掘調査を実施し、遺構の残存状況を把握する必要がある。 ・史跡範囲外においても分布調査などにより遺構の確認を行い、将来的な追加指定を検討する必要がある。 ・調査成果をもとに遺構の保存方法を検討する必要がある。
登城路	<ul style="list-style-type: none"> ・改変された箇所もあるが、現在も主要な登山道として利用され、周辺では石垣などの遺構も確認されている。 ・急傾斜や幅が狭い場所があるなど、危険な箇所もある。 ・森林管理署やボランティア団体、岐阜市が委託しているシルバー人材センタースタッフによる巡視や点検を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・通行に危険がある場所について、安全対策を進める必要がある。 ・来訪者の増加などによる登山道の荒廃が目立つため、巡視や点検を継続し、維持管理を行う必要がある。

表 6-5 B. 絵図に描かれ、現在も受け継がれているAと一体をなす地形及び地物

	現状	課題
金華山の自然地形	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の岩盤を加工した痕跡などが確認されている。 ・一部が土砂災害警戒区域となっている。 ・岩盤の崩落の危険がある個所には、落石防止網を設置している。 ・堰堤、斜面崩落防止施設、防火水槽が設置されている。 ・中部森林管理局が策定する計画書に基づき、「自然観察教育林」に位置づけられている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・露出しているチャートの岩盤などの保存対策及び維持管理を行う必要がある。 ・岐阜公園整備と連動して災害への対策を行う必要がある。 ・巡視によって危険個所を早期に把握し、安全対策を行う必要がある。 ・堰堤等は引き続き維持管理を継続していく必要がある。 ・国有林の計画を踏まえた管理を行う必要がある。

表 6-6 C. 史跡の保存・活用に有効な要素（1）

	現状	課題
登山道	<ul style="list-style-type: none"> ・近代以降、10の登山道が整備されている。 ・急傾斜や幅が狭い場所があるなど、危険な個所もある。 ・森林管理署やボランティア団体、岐阜市が委託しているシルバー人材センタースタッフによる巡視や点検を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・危険個所に対して、安全対策を進める必要がある。 ・来訪者の増加などによる登山道の荒廃が目立つため、巡視や点検を継続し、維持管理を行う必要がある。
案内板・標識等	<ul style="list-style-type: none"> ・かねてより金華山全域で看板の乱立が指摘されていたため、サイン計画を作成し不要な看板の撤去や改修を随時行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・不要な看板について、引き続き撤去や改修を行う必要がある。 ・新たな看板については、その必要性を十分検討したうえで、設置する必要がある。
便益施設	<ul style="list-style-type: none"> ・老朽化が進んだ四阿などの施設の撤去を適宜行っている。 ・3か所ある山上部のトイレうち、2か所について洋式化を行っている。 ・ロープウェー施設により登山道荒廃軽減の効果が得られている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・老朽化等による改修、撤去時には現状変更基準に基づき、その方法について検討する必要がある。
管理施設	<ul style="list-style-type: none"> ・山麓部及び山上部の手すり、照明設備、水道ポンプ、電気・通信設備などがある。それぞれ所管部署により維持管理が行われている。 ・古い設備については、図面等の資料が残っていないものもある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・老朽化等による改修、撤去時には現状変更基準に基づき、その方法について検討する必要がある。 ・各施設の外観や色調などを検討する必要がある。
遺跡公開施設	<ul style="list-style-type: none"> ・1次調査後に整備され、実際に発掘された遺構以外の施設で、礎石レプリカ、付け足した石材、遺構の表面表示、盛土された通路などがある。 ・整備から30年以上が過ぎ、変色や劣化しているものがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の遺構整備に合わせて、統一したものに改修する必要がある。
植物	<ul style="list-style-type: none"> ・ツブラジイやアラカシを主体とした金華山の植生。 ・中部森林管理局が策定する計画書に基づき、「自然観察教育林」に位置づけられている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画に基づいて、引き続き自然の推移に任せた管理を行う。

表 6-7 C. 史跡の保存・活用に有効な要素（2）

	現状	課題
治山施設	<ul style="list-style-type: none"> ・堰堤、斜面崩落防止施設、防火水槽が設置されている。 ・森林管理署や森林ボランティアによる巡視・維持管理が行われている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・堰堤等は引き続き維持管理を継続していく必要がある。 ・防火水槽に穴が開けられる事案が発生しており、維持管理とともに防犯対策を行う必要がある。
(復興天守閣) 岐阜城天守閣	<ul style="list-style-type: none"> ・建設から60年以上が経過し、診断の結果、耐震不足が判明したため、応急的な耐震工事を実施した。また、来訪者への注意喚起の看板を設置している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・耐震化について、関連部署と連携して検討する必要がある。
岐阜公園	<ul style="list-style-type: none"> ・除草清掃や設備の定期点検など、維持管理が行われている。 ・「岐阜公園再整備の考え方及び方針」に基づいた歴史公園としての再整備が検討されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・埋蔵文化財包蔵地であるため、整備の際には試掘調査などにより遺跡の確認を行い、保存方法について検討する必要がある。
岐阜城下町	<ul style="list-style-type: none"> ・現在は開発が行われ、住宅地などになっているが、戦国時代の城下町の町割りは継承され、現在まで受け継がれている。 ・開発に伴う、試掘調査や工事立会いにより遺跡の確認を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・総構や大手入口エリア、上ヶ門口エリア等を中心に、試掘調査や工事立会の成果を蓄積し、性格や構造の解明を行い、保存管理について検討する必要がある。
岐阜城資料館	<ul style="list-style-type: none"> ・現在は展示施設として利用され、維持管理が行われている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・岐阜城天守閣耐震化計画や岐阜城跡整備と連携して資料館のあり方や安全対策などを検討する必要がある。
文化的景観	<ul style="list-style-type: none"> ・「長良川中流域における岐阜の文化的景観保存計画」に基づいて、保存が図られている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「長良川中流域における岐阜の文化的景観保存計画」と連携して保存管理を行っていく必要がある。
周辺の遺跡	<ul style="list-style-type: none"> ・開発に伴う、試掘調査や工事立会いにより遺跡の確認を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・試掘調査や工事立会の成果を蓄積し、性格や構造の解明を行い、保存管理について検討する必要がある。

表 6-8 D. その他の要素

	現状	課題
近代以降城郭整備施設	<ul style="list-style-type: none"> ・山麓部に木製の「冠木門」、山上部には木製の「天下第一の門」とコンクリート製の「二の丸門」、白壁をイメージしたコンクリート製の塀があり、いずれも観光施設として管理されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの管理者が連携しながら老朽化等による改修、撤去時に関する現状変更基準を共有し、適切な管理を持続的に進めていく必要がある。 ・設置の経緯や市民意識を勘案しながら、あり方を検討していく必要がある。
石碑・社	<ul style="list-style-type: none"> ・山麓部の三重塔や山上部の閻魔堂などがある。所管部署や所有者等により維持管理が行われている。 ・所有者不明のものも存在する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・老朽化等による改修、撤去時には現状変更基準に基づき、その方法について検討する必要がある。 ・所有者不明の建造物の取り扱いを検討する必要がある。
公益施設	<ul style="list-style-type: none"> ・山上部の無線中継施設、金華山ドライブウェイ、県道上白金真砂線などがある。 ・山上部に建てられた無線中継施設などの公益施設の老朽化が進んでいる。 ・金華山ドライブウェイや県道上白金真砂線には防護網などの安全対策が施されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・老朽化などに伴う、安全対策を検討する必要がある。 ・老朽化などによる改修、撤去時には現状変更基準に基づき、その方法について検討する必要がある。 ・各施設の外観や色調などを検討する必要がある。
その他施設	<ul style="list-style-type: none"> ・山上部の展望レストランやリス村などがある。 ・山林部の長良川沿いに現在は使用されていない鶴飼観覧所がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・老朽化等による改修、撤去時には現状変更基準に基づき、その方法について検討する必要がある。

表 6-9 その他史跡全体の保存に関わる事項

現状	課題
<ul style="list-style-type: none"> ・金華山に生息するイノシシの被害を抑えるため、岐阜市や岐阜森林管理署により捕獲などの対策が行われている。 ・ドライブウェイを中心にゴミの不法投棄が見られる。 ・登山道から外れて登る登山者が見受けられる。 ・各所でいたずらによる破損などが見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・イノシシ対策を継続して実施していく必要がある。 ・史跡の来訪者や登山者へのマナー啓発を強化する必要がある。

2. 岐阜公園地区

岐阜公園地区における保存管理の現状と課題を以下のとおり整理した。

表 6-10 岐阜公園地区の現状と課題

現状	課題
<ul style="list-style-type: none"> ・ 史跡範囲外の岐阜公園は岐阜千畳敷遺跡として周知の埋蔵文化財包蔵地に指定されている。 ・ 長良川中流域における岐阜の文化的景観の選定範囲に含まれている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 岐阜公園再整備などの際には開発行為に先立ち試掘調査により遺構に与える影響などについて確認を行い、保存方法について検討する必要がある。 また、『長良川中流域における岐阜の文化的景観保存計画』と連携して保存管理を行う必要がある。

3. 周辺砦群地区

周辺砦群地区における保存管理の現状と課題を以下のとおり整理した。

表 6-11 周辺砦群地区の現状と課題

現状	課題
<ul style="list-style-type: none"> ・ 史跡範囲外は岐阜城周辺砦群として周知の埋蔵文化財包蔵地に指定されている。 ・ 分布調査を行い、砦跡などの遺構が確認されているが、全域の調査には至っていない。 ・ 長良川中流域における岐阜の文化的景観の選定範囲に含まれている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 開発行為に先立ち試掘調査により遺構に与える影響などについて確認を行い、保存方法について検討する必要がある。 ・ 全域を対象とした分布調査を行い、将来的な追加指定を検討する必要がある。 ・ 『長良川中流域における岐阜の文化的景観保存計画』と連携して保存管理を行う必要がある。

4. 旧城下町地区

旧城下町地区における保存管理の現状と課題を以下のとおり整理した。

表 6-12 旧城下町地区の現状と課題

現状	課題
<ul style="list-style-type: none"> ・ 史跡範囲外は岐阜城下町遺跡として周知の埋蔵文化財包蔵地に指定されている。 ・ 長良川中流域における岐阜の文化的景観の選定範囲に含まれている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 開発行為に先立ち試掘調査により遺構に与える影響などについて確認を行い、保存方法について検討する必要がある。 ・ 『長良川中流域における岐阜の文化的景観保存計画』と連携して保存管理を行う必要がある。

5. 川原町地区

川原町地区における保存管理の現状と課題を以下のとおり整理した。

表 6-13 旧城下町地区の現状と課題

現状	課題
<ul style="list-style-type: none"> ・ 史跡範囲外は中河原遺跡として周知の埋蔵文化財包蔵地に指定されている。 ・ 長良川中流域における岐阜の文化的景観の選定範囲に含まれている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 開発行為に先立ち試掘調査により遺構に与える影響などについて確認を行い、保存方法について検討する必要がある。 ・ 『長良川中流域における岐阜の文化的景観保存計画』と連携して保存管理を行う必要がある。

第3節 活用の現状と課題

各地区における活用の現状と課題を次のとおり整理した。

表 6-14 活用の現状と課題（1）

	現状	課題
史跡岐阜城跡地区	<ul style="list-style-type: none"> ・市民団体により結成された武将隊が岐阜城やイベントで活動している。 ・森林ボランティアにより金華山保護活動や普及啓発活動が行われている。 ・金華山保存活用推進会議を開催し、関連部署やボランティア団体との情報共有を行っている。 ・市政モニターアンケートを実施した結果、181人中80人が山麓居館を知らないと回答している。 ・発掘調査は危険な箇所を除き原則公開しており、常時見学することが出来るほか、現地説明会を開催している。 ・発掘調査の進捗や成果をホームページやTwitterで随時発信している。 ・発掘調査の様子や成果を撮影し、岐阜市のYouTubeチャンネル等で公開している。 ・岐阜城や発掘調査成果を紹介するリーフレットやハンドブックの作成・配布を行っている。 ・岐阜城天守閣及び岐阜城資料館で岐阜城跡に関する展示を行っている。 ・岐阜城天守閣の耐震診断の結果、耐震強度不足が指摘されている。 ・山麓居館の移動は階段の利用が必須となっている。 ・山麓部と山上部はロープウェーで繋がっており、令和元年度には約72万人（片道換算）が利用している。 ・ロープウェー山上駅から天守までの移動は階段の利用が必須となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民団体による取り組みを支援する体制を構築する必要がある。 ・関連部署やボランティア団体との情報共有を継続する必要がある。 ・安全上の観点から見学が困難な発掘現場については、映像等を活用した公開等を検討する必要がある。 ・リーフレットや冊子は紙媒体のみでの配布のため、デジタル版等複数の媒体で配布を検討する必要がある。 ・学校での郷土教育や現地見学の方法に合わせて、タブレットで参照できる情報の充実を図る必要がある。 ・山上部の岐阜城天守閣・岐阜城資料館は山麓部のガイダンス施設と連携した展示を検討する必要がある。 ・岐阜城天守閣の耐震化について検討する必要がある。

表 6-15 活用の現状と課題（2）

	現状	課題
岐阜公園地区	<ul style="list-style-type: none"> ・岐阜公園内に「日本遺産・信長居館発掘調査案内所」（以下、発掘調査案内所）を設置し、岐阜城や城下町のPRを行っている。 ・山麓居館の復元VR映像を作成し、発掘調査案内所での放映や現地で対比できるタブレットの貸出しなどを行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発掘調査案内所の設置場所が史跡範囲と離れているため、発掘調査案内所の周知やあり方などについて検討する必要がある。
旧城下町地区	<ul style="list-style-type: none"> ・岐阜公園地区と川原町地区も含めた岐阜まちなか歩きマップを作成し、城下町の文化財や観光スポットの紹介を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リーフレットや冊子は紙媒体のみでの配布のため、デジタル版等複数の媒体で配布を検討する必要がある。
周辺砦群地区	<ul style="list-style-type: none"> ・分布調査や絵図資料により砦跡の存在が確認されているが、活用にまでは至っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調査研究を行い、活用の方針を検討する必要がある。
川原町地区	<ul style="list-style-type: none"> ・岐阜公園地区と旧城下町地区も含めた岐阜まちなか歩きマップを作成し、城下町の文化財や観光スポットの紹介を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リーフレットや冊子は紙媒体のみでの配布のため、デジタル版等複数の媒体で配布を検討する必要がある。
登山道	<ul style="list-style-type: none"> ・森林管理署やボランティア団体、岐阜市による巡視や点検、修理作業が行われている。 ・七曲登山道上半と山上部遊歩道はコンクリート舗装されている。 ・大雨や台風の後には、落石や倒木等が起き、通行に支障が生じた事例がある。 ・急傾斜や幅が狭い部分など、通行に注意を要する場所もある。 ・正規の道以外に側道が造られている箇所がある。 ・道の周辺では石垣等の遺構が確認されている。 ・登山道周辺にイノシシが出没し、路肩等を荒らしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大雨や台風後の巡視によって危険個所を早期に把握し、対策を行う必要がある。 ・安全に関する注意喚起を行う必要がある。 ・コンクリート舗装されている歩道下部の状況の確認調査を行った上で、再舗装等を検討する必要がある。 ・舗装や手すり等のデザインについて統一感を持たせる必要がある。 ・正規の道への誘導や、道を外れて石垣を見に行かないよう、注意喚起を行う必要がある。 ・イノシシ捕獲等の対策を継続して実施し、生息数をコントロールしていく必要がある。

表 6-16 活用の現状と課題（3）

	現状	課題
その他動線	<ul style="list-style-type: none"> ・山麓部と山上部を繋ぐロープウェーは、バリアフリー動線となっており、登山道荒廃軽減の効果もある。 ・ロープウェー利用者の増加に伴い、車椅子での乗車等に対応する必要性も増している。 ・ロープウェー山上駅から天守までの移動は階段となっており、車椅子利用者は山上駅から先に移動できない ・山上遊歩道には手すりや転落防止柵が設置されている。 ・山麓部居館跡は階段のみで、車椅子での移動ができない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・来訪者の増加に伴い、年齢や国籍、障がいの有無を問わず、一人でも多くの人に価値を伝えられる公開方法を検討する必要がある。 ・山麓部、山上部において、バリアフリー動線の充実、ユニバーサルデザインの検討を行う必要がある。
ガイダンス施設	<ul style="list-style-type: none"> ・岐阜城天守閣、岐阜城資料館、岐阜市歴史博物館、日本遺産・信長居館発掘調査案内所の4つのガイダンス施設は、それぞれの経緯と目的があり、それぞれ個別に活動している。 ・発掘案内所は仮設的な施設であり、ガイダンス機能も暫定的なものに留まっている。 ・復興天守（岐阜城天守閣）は令和元年度に展示リニューアルを行ったが、山麓居館の説明が中心となっている。 ・復興天守は建設から60年以上が経過し、診断の結果、耐震強度不足が判明したため、応急的な耐震工事を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・岐阜城に必要なガイダンス機能を整理した上で、既存施設を含めて最大限発揮できる機能配置を検討する必要がある。 ・発掘案内所は暫定的なガイダンス施設で入場者数も少ないため、さらに機能を充実させた常設のガイダンス施設を整備する必要がある。 ・施設等にユニバーサルデザインを取り入れる必要がある。 ・復興天守の耐震計画を策定し、関連部署と連携しながら改修を行う必要がある。 資料館は復興天守と一体で活用を図る必要がある。

表 6-17 活用の現状と課題（4）

	現状	課題
全地区共通	<ul style="list-style-type: none"> ・ 有料・無料ガイドが組織され、岐阜城跡や周辺のガイドを行っている。 ・ 「信長塾」「信長学フォーラム」と題し、岐阜城跡や信長、戦国時代をテーマとした講座やシンポジウムを開催している。 ・ 学校や施設での出前講座や、小学生向け漫画冊子の配布を行っている。 ・ 「岐阜市観光ビジョン」の中でも重要な観光資源に位置付けられている。 ・ 「戦国武将ゆかりの地・岐阜」をテーマとしたメニューの認定・PRを行っている。 ・ 写真展やフォトツアーリズム・ロケツアーリズムの推進など、岐阜城跡を活用した観光PRの取り組みを行っている。 ・ 岐阜城や周辺へのアクセス手段としてバスやレンタサイクルが整備されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行政だけでなく、市民団体と連携した情報発信を推進する必要がある。 ・ 対面の講座だけでなく、オンラインによる講座実施にも取り組む必要がある。 ・ 岐阜市観光ビジョンと連携した取り組みを推進する必要がある。 ・ 岐阜城跡だけでなく周辺の整備や関連事業と連携して、エリア一帯の魅力向上に取り組む必要がある。 ・ リーフレットの多言語化について検討する必要がある。 ・ 史跡全体で利用できるアプリなどの解説ツールの開発を検討する必要がある。 ・ 関連計画と連携し、アクセス環境の維持・向上に努める必要がある。 ・ パークアンドライドの取り組みを推進する必要がある。 ・ レンタサイクルの利便性を維持・向上させる必要がある。

第4節 整備の現状と課題

各地区における整備の現状と課題を次のとおり整理した。

表 6-18 整備の現状と課題

	現状	課題
史跡岐阜城跡地区	<ul style="list-style-type: none"> ・ 山麓部の発掘調査箇所について、整備が未着手となっている。 ・ 山麓部で見つかった庭園の整備に向けて遺構への影響などを調査するため、滝の再現実験を行っている。 ・ 山林部の各所に砦などの遺構が残るが、未調査であり、見学路などの整備がされていない。 ・ 山上部の発掘調査は平成 30 年度に着手したところであり、全体像の把握には至っていない。 ・ 山上部の階段には手すりや転落防止柵が設置されており、利用して登ることが出来る。 ・ 金華山全域で看板が乱立していたため、平成 25 年度にサイン計画を作成し不要な看板の撤去や板面張替えによる改修を行っている。 ・ 史跡説明板の多言語化を進めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 山麓部の遺構整備について、具体的な年次計画を検討する必要がある。 ・ 山上部・山林部について、発掘調査を行ったうえで遺構の整備・見学方法を検討する必要がある。 ・ 山麓部・山上部において、通常の動線に加え、バリアフリー動線を検討する必要がある。 ・ 園路に手すりの設置など、ユニバーサルデザインを取り入れた整備を検討する必要がある。
岐阜公園地区	<ul style="list-style-type: none"> ・ 岐阜公園への来訪者は年々増加傾向にあり、令和元年度は約 104 万人の来訪者があった。 ・ 園内にはトイレやベンチなどの便益施設が整備されている。 ・ 平成 19 年度から岐阜公園内に発掘調査案内所を開設し、これまでの発掘調査成果や出土遺物の展示を行っている。 ・ 岐阜公園内にある岐阜市歴史博物館では、岐阜市の通史及び戦国城下町に関する展示を行っている。 ・ 岐阜公園内に総合案内所が設置されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 来訪者の増加に伴い、年齢や国籍、身体的特徴などを問わず、一人でも多くの人に価値を伝えられる公開方法を検討する必要がある。 ・ 発掘調査の案内については、機能を充実させたガイダンス施設を整備する必要がある。 ・ 繁忙期のアクセス環境の対策を行う必要がある。

表 6-19 整備の現状と課題（2）

	現状	課題
旧城下町地区	・ 駐車場や誘導サイン、トイレなど、見学に必要な設備が不足している場所がある。	・ 見学に必要な設備の整備を検討する必要がある。 ・ まち歩きを楽しむことができる整備を検討する必要がある。
周辺砦跡群地区	・ 分布調査や絵図資料により砦跡の存在が確認されているが、整備にまでは至っていない。	・ 調査研究を行い、追加指定や整備の方針を検討する必要がある。
川原町地区	・ 「長良川中流域における岐阜の文化的景観整備計画」、「ぎふ長良川鶉飼かわまちづくり計画」により整備の方針が示されている。	・ 「長良川中流域における岐阜の文化的景観整備計画」、「ぎふ長良川鶉飼かわまちづくり計画」などの関連計画と連携して整備の検討をする必要がある。

第5節 運営・体制の現状と課題

運営・体制における現状と課題を次のとおり整理した。

表 6-20 運営・体制の現状と課題

現状	課題
<ul style="list-style-type: none"> ・ 岐阜城跡の保存活用においては、専門家や有識者による「史跡岐阜城跡整備委員会」において審議を行い、事業を進めている。 ・ 令和2年度から岐阜市役所に「ぎふ魅力づくり推進部」が設置され、文化財、博物館、観光、文化芸術、スポーツ等の施策が一体的に推進できるようになった。 ・ 史跡岐阜城跡にかかわる市役所内の部署や、国・県等の関係機関が多いため、「岐阜城・金華山保存活用推進会議」を定期的に開催し、関連部署やボランティア団体との情報共有を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後も継続して委員会による審議を行ったうえで、事業を進める必要がある。 ・ ぎふ魅力づくり推進部として、一体的に事業を推進する必要がある。 ・ 学校教育との連携を推進していく必要がある。 ・ 今後も定期的に関連部署やボランティア団体との会議の場を設け、横の連携を強化していく必要がある。

第7章 基本理念と基本方針

第1節 基本理念

岐阜城跡が市民にとって全国に誇れる存在となり得るには、調査によって岐阜城跡の持つ価値と魅力を発見し、整備によって顕在化して全国に発信することが重要である。また、岐阜城を未来へ継承し発展させるためには、関連する事業や計画と連携しながら、適切な保存管理を行っていくことが必要不可欠である。以上を踏まえ、史跡岐阜城跡の保存活用の基本理念を次のとおり設定した。

史跡岐阜城跡の基本理念

魅力発見☆発信↗発展↗
未来へつなぐ岐阜城跡

発見☆

- ・調査研究を積み重ね、近世城郭の始まりの城であり、戦国時代に繁栄した岐阜城跡の歴史や価値、魅力を明らかにする。

発信↗

- ・調査研究で明らかになった岐阜城跡の価値や魅力を、史跡整備を通じて発信し、全国に誇れる城跡を目指す。

発展↗

- ・発見、発信を積み重ね、岐阜城跡の価値や魅力を向上させ一体感のあるまちづくりを行うとともに、適切な保存を行い、未来へ継承し、発展させる。

第2節 基本方針

前節の基本理念を具体化するため、各項目における基本方針を次のとおり設定した。以下の方針を基に、次章以降で各項目の方向性や方法を示す。

調査の基本方針（発見・発展）

- ・発掘調査や文献調査など、総合的な調査研究や全国の城郭との比較検討を積み重ね、岐阜城跡の知られざる価値や魅力を明らかにする。

保存の基本方針（発展）

- ・史跡周辺も含めた遺構を的確に把握し、関連する計画などと連携して適切に保存管理を行い、史跡岐阜城跡が持つ多様な価値を未来へ継承し、発展させる。

活用の基本方針（発信・発展）

- ・岐阜城跡と関連する地区と一体で岐阜城跡が持つ価値や魅力を正確に伝え活用し、地域に対する誇りの醸成、観光振興や地域活性化に貢献する。

整備の基本方針（発信・発展）

- ・岐阜城跡の確実な保存と、価値や魅力を一人でも多くの人に伝えることの出来る整備を目指す。

運営・体制の基本方針（発展）

- ・関連機関や関連事業と連携し、岐阜城跡の価値や魅力を向上させ、守り伝えることの出来る運営・体制を構築する。